

NITTO KOHKI CO.,LTD.

Social & Environmental REPORT 2017

日東工器 2017年 社会・環境報告書

地球環境への取り組みを通じて
社会的責任を果たし
持続可能な社会を追求します

編集にあたって

発行目的と編集方針

日東工器株式会社の社会・環境への取り組みと現状を株主やお取引先をはじめとするステークホルダーの皆様にご理解いただき、皆様とのコミュニケーションを深めていくことを目的としています。社会貢献活動や環境負荷についての指標を中心に、正確で透明性の高い情報開示をモットーに編集を進めました。また、2015年から「社会・環境報告書」といたしました。財務情報、企業情報について詳しくお知りになりたい方は、ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nitto-kohki.co.jp/>

対象期間

2016年4月～2017年3月

対象範囲

原則として、日東工器株式会社としています。また、参考としてグループ会社の栃木日東工器株式会社、白河日東工器株式会社、株式会社メドテックおよび海外グループ会社の環境負荷の状況報告を含んでいます。なお、メドー産業株式会社は日東工器株式会社を存続会社として2016年4月1日吸収合併しました。

発行時期

- 発行日：2017年5月10日
- 次回発行：2018年5月予定

日東工器では2010年から環境報告書を発行しています。

ガイドライン（参考）

- 環境省
「環境報告書ガイドライン（2012年版）」

お問い合わせ先

日東工器株式会社 ISO推進部
●TEL：03-3755-1111
●FAX：03-5700-7192

後発事象

2017年4月1日以降、発行日現在までの後発事象はございません。

免責事項

この報告書には、日東工器の過去と現在の実事だけでなく将来についての計画、予想および見通しの記述が含まれています。これらの記述は、現時点で入手した情報に基づく仮定ないし判断であり、諸条件の変化によって将来の事業活動の結果や事象が予測と異なる可能性があります。

Contents

編集にあたって	1
Top Message	2
Topics	
おかげさまで 創立60周年	3
救命講習会開催 緊急事態！遭遇に備えます	5
まわりの人たちの生命・身体は自分たちが進んで守る！	

Chapter1

経営

Part 1 企業統治/内部統制	7
社是・社訓・経営方針/取締役会および内部統制の役割/ コンプライアンスの整備・運用状況/ BCP（事業継続計画）に基づくマネジメントの状況/防災訓練	
Part 2 事業分野・財務状況	9

Chapter2

社会への取り組み

Part 1 お客様とともに	11
営業部門の取り組み/ 日東工器製品とお客様の関わり	
Part 2 学生との関わり	12
会社説明会から入社まで/ インターンシップによる学生の受入	
Part 3 社員および家族との関わり	13
家族参観日/メンタルヘルス研修/ ライフプランセミナー/社員向け決算発表会/ 社員会（労働者組織）活動紹介	
Part 4 地域との関わり	15
エコフェスタワンダーランド/各清掃活動/ 名古屋支店の震災対策/下町ボスレープロジェクト	

Chapter3

環境への取り組み

Part 1 日東工器が目指す環境経営	17
Part 2 環境方針・環境マネジメントシステム	17
Part 3 製品含有化学物質への取り組み	18
環境に関する法規制順守状況/グリーン調達/ 環境教育の実施状況	
Part 4 地球温暖化対策・廃棄物の削減	19
地球温暖化防止に向けた活動/廃棄物の削減	
Part 5 環境への影響について	20
Part 6 製品開発	21
自社製品コンセプト/環境配慮設計/ NITTO KOHKIモノがたり	
ECO Topics	22
Part 7 生産部門の取り組み	23
日東工器グループのグリーン調達方針/ 国内生産グループ会社の取り組み/改善活動 海外生産グループ会社のCO ₂ 排出量と電力使用量	
Part 8 オフィスの取り組み	25
Part 9 生物多様性への取り組み	26
やまがた絆の森プロジェクト	

環境対応への取り組みを強化し、 社会に貢献し続けます。

日東工器株式会社 代表取締役社長

小武 尚之



2015年12月の国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）で採択されたパリ協定が2016年11月に発効するなど、環境対応への取り組みを地球規模で進める動きが強まっています。

当社は、長年産業界の発展に貢献してきたメーカーとして、事業活動での環境負荷の軽減や、製品を通じた地球環境への貢献に努めています。

環境配慮製品とISO14001

当社が行っている製品における環境貢献を紹介します。製品の設計・製造・使用から廃棄に至る全ての工程において環境配慮を行うことを、環境配慮設計（DfE）評価として実施しています。新製品開発においてDfE評価を実施して以来、2016年度までの13年間で208件の環境配慮設計製品を、世の中に送り出しています。

また、2016年度から新製品に加え、既存製品に対してもDfE評価を実施しています。開発した当時には無かったDfE評価のフィルターを通して再評価します。評価において必要が生じた場合は、既存製品の改良を図ります。その結果、当社はほとんどの製品を環境配慮製品として世の中に提供することが可能となります。

2015年に環境マネジメントシステムであるISO14001が、11年ぶりに大幅改訂されました。本来、ISO規格は事業活動の円滑化を目的とした業務管理システムですが、残念ながら従来の規格では、その目的が十分達成されているとは言えませんでした。2015年度版ISO14001ではそれら問題点を解消するため、規格改訂の主要事項として事業活動と環境マネジメント活動との一体化を求めています。

当社は2004年度に取得したISO14001について、2016年11月に2015年度版規格への移行認証審査を受審しました。併せて、日東工器グループ各社も2015年度版移行認証へ準備を進め、規格改訂の本質を理解しISOのマネジメントシステムが事業活動に有効となるように活用します。

グリーン調達

企業の経営環境は、さまざまな要因により日々刻々と変化しています。近年は環境影響化学物質規制を厳格化する国際的な気運が高まっています。

環境規制を順守するため、当社は2004年に日東工器グリーン

調達基準を定めました。以後、法令改正に合わせて基準を見直し、2017年は日東工器グリーン調達基準Ver.8.2版を発行しました。当社は、仕入先様に基準の周知を図り、環境影響化学物質規制への対応と化学物質情報の管理を行っています。

日本における化学物質情報の伝達に関しては、今まで製造業は業界ごとにさまざまな情報伝達ツールが用いられ、製造業全体での情報共有に対する弊害となっていました。2015年10月に経済産業省の主導による新情報伝達ツール（chemSHERPA）の運用が開始され、当社も業界動向を踏まえながら新情報伝達ツールへの管理情報切替えを図っていきます。

当社の化学物質管理体制は、2012年に制定された製品含有化学物質管理に関するJISに沿って従来のグリーン調達体制を見直し、日東工器グループ製品含有化学物質マネジメントシステム（CMS）を構築しました。CMSは、2014年度から運用を開始し、2016年度は内部監査のプレ運用を実施しています。CMSを運用向上することで、従来よりも安全・安心感の高い製品をお客様に届けることができます。

これら紹介したグリーン調達活動は、業界内で先行していると自負しています。もちろんこうした取り組みには、仕入れ先様の多大なる支援が欠かせません。仕入れ先様には、化学物質管理の重要性を認識いただき、協力をお願いしています。当社事業に関わる全ての仕入れ先様の協調・連携の上で、当社のグリーン調達活動は実現しているのです。

製品やサービスにおいて真摯に、そして最善の環境対応への取り組みを行うことが、当社の企業姿勢です。

社会・環境対応への取り組み

21世紀になってモノづくりを行う我々メーカーの位置付けが、大きく変化しました。単に「モノを作って売る」以外にさまざまな要素への対応が、当たり前のこととして強く求められています。経営の透明性を図る企業統治と体制構築を行うこと。関わりのある全ての利害関係者との共存関係を構築すること。そしてメーカーとして信頼性の高い製品を世の中に送り出し、社会に貢献をすること。それら全てを継続的に実行する必要があります。

当社は「省力・省人化」をテーマとし、社会的に有益な事業活動を展開し、産業界の発展に貢献しています。環境においても企業としての責任を果たし続けたいと考えています。



日東工器の60年間を彩る製品カタログ

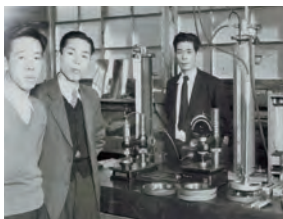
Topics

おかげさまで 創立60周年

—無限の可能性を信じ、信頼のモノづくりで社会に貢献し続けていく—

2016年、日東工器は創立60周年、また当社の発展には欠かせない日東会が設立50周年を迎えました。
無事にこの節目を迎えることができたのは、お取引先や販売店、お客様の支えがあったからこそ。
これまでの当社の軌跡を振り返ります。

60周年の営みを支え、時代の象徴となった当社の主力製品を紹介します。



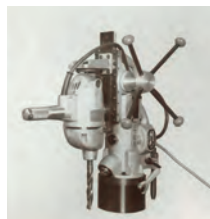
1956

日東工器の原点となった
高精度測定器
「エアマイクロメーター」



1956、1964

世界中に普及した迅速流体継手
「カプラ」
SPカプラ（上）、ハイカプラ（下）



1958

数々のヒットを記録・進化した
鋼材穴あけ加工機
「アトラ」



1973

多様な分野へ貢献した
コンプレッサ&ポンプ
「リニア駆動ポンプ」

創立から60年

「開発は企業の保険なり」の精神をつなぎ、より豊かな社会形成の一助に

1956年、小さな一室から日東工器の歴史は始まりました。創業当初に着手したのは「エアマイクロメーター」の製造販売です。当時、「エアマイクロメーター」は画期的な開発であり、旧国鉄の技術陣などをはじめ、多くのお客様から支持されました。「エアマイクロメーター」で蓄積した技術は、次の主力製品を生み出します。それが迅速流体継手「カプラ」です。「三種の神器」の一つである冷蔵庫の冷媒ガス注入に絶大な威力を発揮し、多数の大手電機メーカーに導入していただきました。その後もお客様から信頼される「モノづくり」を目指し、無二の技術力を生かして「省力化機械工具」「リニア駆動ポンプ」「ドアクローザ」など多種多様な製品を世に送り出してきました。

「カプラ」が冷蔵庫普及の一役を担ったように、当社の製品はいずれも産業界の省力・省人化や作業環境の改善に貢献

できる製品です。これら製品を生み出す源泉となっているのは、当社が創業以来大切にしてきた一つの思いです。「開発は企業の保険なり」。社員一人ひとりがこの社是に則り、常により豊かな社会、より良い社会の実現を目指してきました。その飽くなき姿勢は、これからも変わることはありません。無限の可能性を信じ、世のため人のためとなる「未来」を創造し続けていきます。

現在は、2016年度を初年度とし、2020年、東京五輪の年度をゴールとする中期経営計画を策定し、推進しています。「全体最適」「種まき」「業務効率化・自動化」の三つをキーワードに各種施策を実行し、持続的に成長する企業体質をつくっていきます。お取引先や販売店、その他関係者の皆様には引き続きのご支援をお願いします。

日東会設立50周年 これまでの感謝を胸に、これからも皆様と共に歩み続けます

当社の発展になくてはならなかった日東会。発足50周年を迎えた今、改めて日東会の歴史に触れ、日東会会員の皆様に感謝いたします。

1966年、創業者・御器谷俊雄会長の兄である故・御器谷鉄三の発案により、「日東会」は発足しました。「市場にしか真実はない」。この認識のもと「お客様→販売店→代理店→日東工器」とする逆ピラミッド型の流通経路体制を確立させ、日東会会員とともに製販一体となって、お客様のニーズを的確に応えた製品を全国各地に届けてきました。当社がこれまで、「お客様目線」に立って、組織としてきめ細かにお客様に対応できているのは、情報・サービスの流れをスムーズ化させている「日東

会」あってこそです。

2016年、「日東会」は日東工器創立60周年の節目と同じくして設立50周年を迎えました。その加盟店は6,000店を超え、当社の展示・実演・即売会である「アタックフェア」などの販売促進活動を支えています。50周年を迎えた今、これまでの謝意を込めて、日東会加盟店をはじめ多くの皆様とともに、今後も未来への持続的な成長に向けて販売活動を強化していきます。



アタックフェア



展示会



救命講習会開催 緊急事態！ 遭遇に備えます

まわりの人たちの生命・身体は自分たちが進んで守る！

日東工器は防災意識向上の一環として、救命講習会を毎年実施しています。

講習内容

① 普通救命講習

応急手当、心肺蘇生（AED操作を含む）などを学ぶコース

② 上級救命講習

普通救命講習会の内容に傷病者管理・外傷の応急手当・搬送法を加えたコース



災害対策の一環として、日東工器は田園調布消防署の協力のもと「普通救命講習会」「上級救命講習会」を毎年本社で開催しています。きっかけは、防災意識向上のために、役員を含む危機管理委員会のメンバーで救命講習会を受講したことでした。講習会は非常に有益で、社員にもぜひ経験・習得させたいとの声を受け、受講対象を拡げました。

現在では危機管理委員や防災対応に関わりの深い総務部員・自衛消防隊員は、より高いレベルの「上級救命講習」を3年毎に継続的に受講しています。救命救急の知識がある社員が増えることは、災害が起きたときに社内で迅速に対応可能になるだけでなく、近隣のみならず、自分たちの日常生活範

囲を含めた地域の役に立てると考えています。講習会を受講したことで、災害時だけでなく日常生活の中で緊急事態が発生した際に、救急車が到着するまでの間に何をすべきか、優先順位についても学ぶこともできました。

本社の取組みを受けて、大阪支店は2016年に初めて普通救命講習会を実施しました。これを機に他の支店・営業所にも輪を上げ、いざという時の人命救助に役立てられたら、地域社会の安全向上においても喜ばしいことだと思います。

2017年に6回目を迎えた救命講習会。その受講者は延べ140人を超えました。今後も継続して実施し、本社の全社員が習得できるようにしたいと思います。

受講者の感想



総務部 人事課
松田 紘幸

今回の講習でAEDの操作や救命行為・応急処置の基本を学ぶことができました。幼い子どもがいる身としては、幼児への対処方法はとても勉強になりました。講習で使用したテキストを家に持ち帰ったところ、いつの間にか4歳の娘の愛読書になっており、一緒に読むことで毎週のように復習ができています。実際に救命行為が必要な場面に遭遇した際には、自ら進んで手を差し伸べて、少しでも役に立ちたいと思います。



経理部 経理課
穂谷野 圭

講師の方が「助け合える環境づくりが大切だ」と仰っていたことが印象的でした。心肺蘇生やAEDの使用など、誰かを救助するために行動ができることはもちろん大切ですが、それだけではなく、自分が救助される側になった時にも、助けてもらえるようにしておく必要があると学びました。そのために日頃から当事者意識を持ち、安心して働ける地域・職場づくりに努めたいと思います。



警備室にAEDを常設し、緊急時には近隣の方も利用できる状態になっています。

Chapter 1 経営

Part

1

すべてのステークホルダーに誠意を尽くし、信用を蓄積し続けます。

企業統治（コーポレートガバナンス）／内部統制

日東工器のコーポレートガバナンスの目的は、企業価値を高めていくためのものです。

その認識に立ち、適時適切な情報開示によって透明性を確保できるよう、

経営の監視が適正に機能するよう努めていきます。

社是・社訓・経営方針

社是

開発は企業の保険なり

社是にある「開発」には

4つの意味が含まれています。

- ① 社会に貢献する製品開発
- ② 販売市場の開発
- ③ 人材開発
- ④ 組織管理体制の開発

これらの開発に全力を尽くすことが、会社の経営体質を強化し会社の永続的發展を保証する。すなわち「保険」であるということです。

社訓

- 創意を発揚し技術を蓄積しよう
- 鋭気を涵養し活力を蓄積しよう
- 誠意を尽くし信用を蓄積しよう

職場は社員の人格形成の場であり、すばらしい人生を送ってもらいたいという願いを込めた社訓で、社員の行動規範を示しています。「技術」とは職務上の技術と能力のことで、「活力」とはファイト盛んな心身の活動力です。また「信用」とは社会的信頼を得る力です。これら「技術」「活力」「信用」のバランスを保ちながら蓄積していくことで、社員が人間的に成長し、ひいては会社の発展につながります。

経営方針

- 社会への貢献
社会に役立つ価値ある製品を開発、製造、販売し広く社会に貢献することを目指す。
- 従業員の幸福
経営活動を通じ従業員とその家族が幸福になることを目指す。
- 会社の発展
「社会への貢献」「従業員の幸福」を実現するために、適正な企業利潤を追求し企業の発展を目指す。

取締役会および内部統制の役割

取締役会は、2017年3月現在11人の取締役で構成され、毎月、定例取締役会を開催しています。また、必要に応じて臨時取締役会を開催しています。

取締役11人のうち2人は会社との利害関係がない社外取締役であり、弁護士や公認会計士など企業価値向上のために客観的な判断ができる人を選任しています。

取締役会において、業務を執行する取締役は会社が成長するために必要な提案を積極的に行い、社外取締役はその提案について中長期的な企業価値向上の観点から意見を述べ、十分に審議をしたうえで決議をしています。また、取締役会は、会社法に基づく業務の適正を確保するための体制の整備について決議し、内部統制システムの基本方針はホームページ「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」で開示しています。

当社は内部統制システムを整備し、適切に運用することにより社会

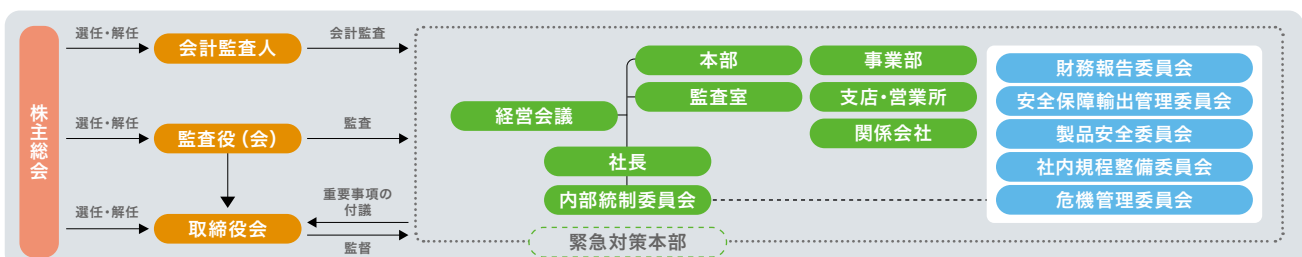
的責任を果たし、企業価値の向上を図ります。

また、監査室は、独立した内部監査部門として社内全部門を網羅的な計画の基に、統制活動・リスク分析・情報伝達・業務改善・法令および社内規程の順守状況を客観的に評価し、経営の健全化・合理化に資するための監査を実施しています。2017年3月現在、法規制の違反や利害関係者からの要求および苦情の報告はありません。

監査役会は、2017年3月現在3人の監査役で構成され、そのうち2人が社外監査役です。監査役は取締役会のほか重要な会議に出席し、取締役の任務遂行について厳正な監視を行うとともに適切に意見を述べています。

また、監査役は、各取締役・会計監査人・監査室（内部監査）と連携・情報収集を行い、そこで収集した監査に必要な情報をもとに毎月、定例監査役会を開催、審議を行い、必要に応じて経営改善のための提言などの措置を取っています。

内部統制システム組織図



コンプライアンスの整備・運用状況

● コンプライアンスへの取り組み

日東工器グループは、企業理念に基づき、法令順守はもとより社内規程・企業倫理・社会規範に則り、良識をもって行動するための基本事項を定めています。これを適切に運用することにより、コンプライアンスの徹底と社会的信用の向上を図ります。

● コンプライアンス教育

2016年8・9月に本社勤務の役員と社員を対象とした「企業秘密の取扱い」「インサイダー取引規制」の研修会を開催しました。実務に直結する内容であり、受講者は熱心に講師の話しに耳を

傾けていました。また、2015年7月からコンプライアンスに関するメールマガジンが、毎月全社員に配信・周知されています。今後もコンプライアンス教育を実施します。

● コンプライアンス相談窓口

日東工器グループは「内部通報窓口」として社内、社外それぞれにホットライン（通報・相談窓口）を設置しています。あわせて内部通報規程やポスターなどで、社員に「内部通報窓口」を周知しています。

BCP（事業継続計画）に基づくマネジメントの状況

内部統制の「専門委員会」の一つである危機管理委員会は、総合的なBCM（事業継続マネジメント）の一環として、海外治安・自然災害・感染症・事故の災害リスクなど、必要に応じた緊急対応の検討を行っています。2011年に発生した東日本大震災の早期復旧体制や、タイ国の大洪水で生じた工場浸水による一時的な国内工場への生産シフトの経験から、お客様への影響を最小限とする体制を構築しています。また、自然災害に備えて拠点ごとにリスク評価と訓練の実施、海外治安情報の

伝達、インフルエンザ対策、規程類の見直し、非常用品の備蓄を計画的に行っています。

当社の事業継続マネジメントに対する取り組みを利害関係者に理解していただくため、BCM体制をホームページの「事業継続マネジメント」で公開しています。今後は、体制を充実させるため、製造業としてさまざまなリスクを想定し、代替生産の充実や、物流リスクの低減を検討していきます。

防災訓練

熊本県は、2016年4月に「震度7」の地震が2度発生し、甚大な被害を受けました。東日本大震災から5年が経過し、忘れていた自然の猛威と防災意識の重要性を改めて認識させられました。日東工器は、こうした自然災害や火災事故などに備え、訓練を実施しています。

本社は、2016年11月に、自衛消防隊 約50人を含め総勢290人による防災訓練を実施しました。揺れの大きな地震発生後の火災を想定し、屋外へ緊急避難。普段立入が制限されているセキュリティエリアを開放し避難通路を確保。また、天井に設置した防煙壁を起動させ、より実践的な訓練を行いました。自衛消防隊は、事前に計画した行動を実践し、その有効性を確認しました。避難訓練後、消火器による初期消火訓練に加え、消防署の「けむり体験ハウス」で、煙の怖さ・吸煙しないための動作など、火災発生現場の模擬訓練となりました。

当日の訓練と併せて、国内社員を対象に安否確認システムから緊急メールを配信・報告する、安否報告訓練を実施しました。応答率は、97.3%と高い結果となりましたが、今後も100%を目指し訓練を継続します。各拠点の防災訓練も、より実践的な防災訓練計画を策定し実施しています。



※自衛消防隊は（通報連絡班・初期消火班・避難誘導班・安全防護班・応急救護班）の5班で構成されています。

作業の省人化・省力化を軸に産業の未来を創造します。

事業分野・財務状況

日東工器は「開発は企業の保険なり」を社是に、独創的な技術による事業活動を展開してきました。モノづくりを追求するメーカーとして「時代のニーズに応じた製品開発」「信頼性が高く独創的な技術」を基本とし、半世紀以上にわたって事業を営んでいます。

その事業は ①25,000種におよぶ迅速流体継手「カブラ」、②鋼材穴あけ加工機「アトラ」や溶接のスパッタ取り工具「ジェットタガネ」などの省力化機械工具「ツール」、電動ドライバ「デルボ」、③リニア駆動などのコンプレッサ&ポンプとその応用製品「リニア」、④動力源不要のドアクローザ「オートヒンジ」の4分野で構成されており、その卓越した性能・品質によりいずれも高い顧客満足度を得ています。

社にある「開発」とは技術・製品だけでなく、マーケティング（営業）、人材育成などのイノベーション（創造的な変革）も意味しています。日東工器は、開発を軸とした経営によって、今後とも一層の成長・発展を目指していきます。

ドアクローザ（オートヒンジ）

電力などの動力源を必要とせず、開けたドアを油圧とスプリングで静かに閉めるドアクローザ「オートヒンジ」は、より快適で安全な生活空間を提供する、環境に配慮した製品です。「開き戸用」の中心吊型、丁番型のアームレスタイプと「引き戸用」のスライディングクローザがあり、ドアの外観を美しく演出します。

高齢者や小さな子どもでも安全に扉を開けられるスライディングクローザは、バリアフリーの面からも注目され、一般住宅はもちろん、学校、医療施設など幅広い分野で採用されています。

ドア周辺機器にも安全性・省エネ性の要望が高まっており、用途に合わせた製品の開発を進めています。



迅速流体継手（カブラ）

空気・水・油・ガスなどの流体配管の“接続・切り離し”を簡単かつスピーディに行う迅速流体継手「カブラ」。世界のトップブランドとして一般家庭から産業界まで幅広い分野でさまざまな用途で活用されています。

生み出された製品群は25,000種類以上にのぼっており、業界ではトップクラスのシェアを誇っています。環境対応製品や、従来と異なる用途分野をマーケットに提案・提供しています。

機能やバリエーションはもとより、耐久性や信頼性においても高いレベルの要望に応えるため、流体工学や材料工学、制御技術、電気・電子技術などの最新技術を駆使し、時代の先端をいく高品質・高機能製品の開発を進めています。

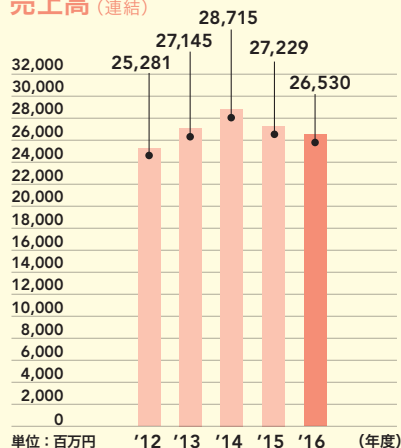


カブラ

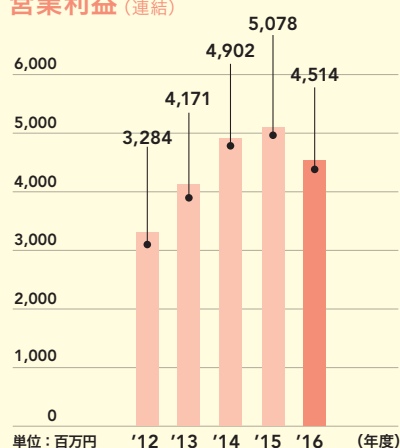
41.8%

財務データ（連結決算指標） 財務データの詳細は、ウェブサイトをご覧ください。 <http://www.nitto-kohki.co.jp/>

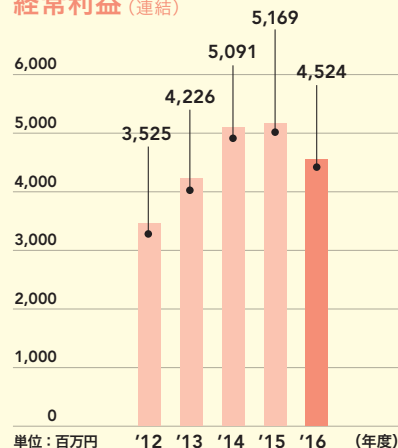
売上高（連結）



営業利益（連結）



経常利益（連結）



コンプレッサ&ポンプとその応用製品 (リニア)

小型・軽量・低作動音・低振動・クリーン・長寿命など多くの特徴を持ち、日東工器が世界で初めて実用化した製品・リニア駆動ポンプを中心に、電磁ダイヤフラム、DCモータ駆動、圧電素子駆動など、各種真空ポンプ&コンプレッサをラインアップしています。また、これらの技術を応用し、浄化槽用ブロワや医療・家庭向けのエアマッサージ器などユニークな応用製品も充実しています。その用途は産業機器をはじめ、医療・福祉、健康機器、環境関連機器などさまざまな分野へと拡大しています。



省力化機械工具と電動ドライバ (ツール、デルボ)

鋼材の切断・研磨・剥離・穴あけ・面取りなどさまざまな加工現場で使用されている機械工具。その加工形態、作業状況の多様化に合わせ、空圧・電動・油圧を駆動源とした製品群を準備しています。

さらに、「省力・省人化と作業環境の改善」というコンセプトのもと、パワーアップと小型化という不変のテーマに挑戦し続けるとともに、常にニーズの一步先に立ち、操作性や安全性、デザイン性、環境への配慮などを追求しています。

高精度のトルク管理を実現する電動ドライバ「デルボ」は、使いやすさと省エネ・低作動音を実現した信頼のブランドとして世界中で愛用され、デジタル家電・IT関連などの精密機器分野の組立て作業現場で、幅広く活躍しています。



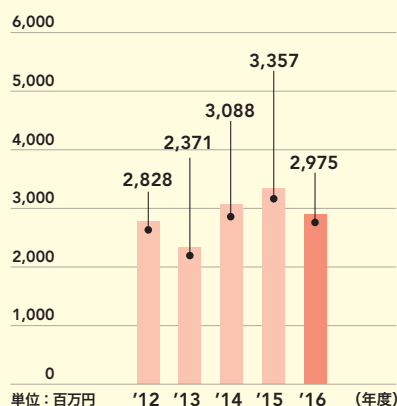
オートヒンジ
7.7%

リニア
16.3%

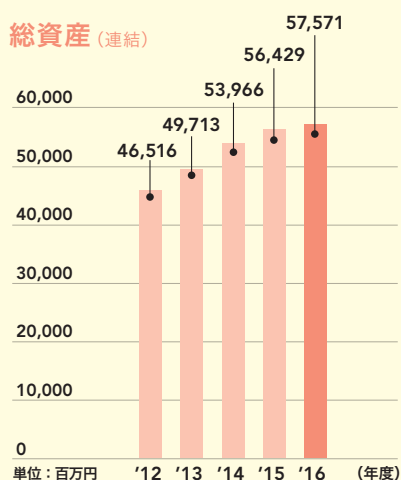
ツール、デルボ
34.2%

4分野売り上げ構成比
2016年度実績
(2017年3月期)

当期純利益 (連結)



総資産 (連結)



会社概要

商号
日東工器株式会社

設立年月日
1956年10月22日

本社所在地
東京都大田区
仲池上二丁目9番4号

資本金
18億5,032万円
(東証一部上場: 機械)

従業員数
単体 413人 (連結 919人)

ISO14001認証の取得年月
2004年5月

国内グループ会社

3社
栃木日東工器株式会社
白河日東工器株式会社
株式会社メドテック

海外グループ会社

7社
アメリカ、ドイツ、タイ、
オーストラリア、中国
(2017年3月31日現在)

Chapter 2 社会への取り組み



Part

1

お客様への製品提案活動を通して環境負荷の低減を行います。

お客様とともに

日東工器グループは地球環境への貢献を目指し、環境配慮製品を含めた「提案型営業」を推進しています。

営業部門の取り組み

日東工器は、よりお客様に近い営業活動を目指し「環境配慮製品」を含め「提案型営業」を積極的に進めています。

地域密着型の展示即売会の「アタックフェア」、当社と販売店との二人三脚でお客様に合わせた製品の提案活動を行う「アタックキャラバン」、各種製品を備え付けたキャラバンカーでお客様に出向きミニ展示会を行う「出前フェア」を実施しています。「体感コーナー」では、製品を実際に見て・触れて・動かして、実感してもらえます。

これからも、日東工器製品群とマーケットを熟知した販売店で構成する、独自の販売・流通組織「日東会」と連携し、地域に密着したきめ細かな活動を展開し、社会との絆を大切に、お客様のためになる製品の普及に努めていきます。

2016年度実績

アタックフェア	22回
アタックキャラバン	108回 (200日)
出前フェア	351回

日東工器製品とお客様の関わり

●株式会社トマトInc様

名古屋市にある株式会社トマトIncは、美容ライト脱毛機を製造・販売している、エステサロン向け美容機器の製造・販売会社です。

同社の美容ライト脱毛機は、特殊な光を肌に照射して、除毛・減毛を行います。日東工器の真空ポンプ「VP0940」が、美容ライト脱毛機の冷却装置として長く採用され続けています。美容ライト脱毛機では、特殊なキセノンランプを使用するため、寿命や安全性の観点から、ランプを冷却することが欠かせません。「VP0940」はランプ周辺の空気を吸引・排気して除熱する空冷用ポンプとして威力を発揮しています。一般的には水冷式が主流ですが、冬場には修理部品が輸送中

に凍ってしまう問題や、メンテナンスのし易さを考えて空冷式を採用しました。海外製の真空ポンプはサイズが大きく、音もうるさいことから、それに代わるものを探していたところ、日東工器から要求仕様を上回る提案があり採用に至りました。当社の真空ポンプを採用した美容ライト脱毛機は、「VP0940」を搭載した「Silky Light II」と、ツインタイプのポンプ「VP0940T」を搭載した「Silky Light EX」があります。どちらも脱毛機1台あたりポンプを2台搭載しています。

株式会社トマトIncでは、東京オリンピックまでに、水素と美容ライト脱毛機を組み合わせた美顔サロンを全国100店舗展開しようと準備を進めており、さらなる業容拡大が期待されます。



株式会社トマトIncの熊谷正社長（左）と営業 赤堀健司（右）



「VP0940」を搭載した「Silky Light II」

Part 2

学生たちに日東工器の「モノづくり」に対する姿勢を伝えていきます。

学生との関わり

日東工器グループの採用活動では学生一人ひとりと理解を深め、ありのままの日東工器を知ってもらうことに重きを置いています。今後もインターンシップによる学生の受け入れや「働く現場説明会」など、学生との触れ合いを通じてモノづくり産業に貢献していきます。

会社説明会から入社まで

日東工器は毎年約10人の新入社員を採用します。業界内では知名度の高い当社ですが、就職活動をする前は「日東工器」という会社を全く知らない学生が大半です。そのため、選考過程では一人ひとりの学生との「相互理解」を重視しています。学生の皆さんには、自己分析や業界・企業研究を通じて、単に「良い会社」ではなく「自分に合う会社」を選んで欲しいので、会社説明会は日東工器の事業・製品はもちろん、「社名の由来」や「社是」「経営方針」なども説明します。また、営業職・開発職社員による担当業務や製品の説明は、具体的な業務内容の理解はもちろん、社風や社内の雰囲気を感じてもらいたい機会です。そして、本社オフィスや実験室・部活動用の屋上コートなどを見学し、当社で働く姿を具体的にイメージしてもらいます。

面接やグループディスカッションは少人数単位で実施します。また、最終面接後には人事担当者



本社ショールーム見学

面談を行い、お互いにしっかりと理解を深めたうえで正式内定となります。

メーカーである日東工器は、内定式の代わりに国内生産グループ会社3工場見学会を実施します。見学会は、内定者に「モノづくり」に対する真摯な姿勢を理解し、学んでもらうことを目的としています。

今後も、採用する学生一人ひとりの定着と活躍を見据えて相互理解を重視した採用活動を実施していきます。



工場見学会

インターンシップによる学生の受入

日東工器本社では、2016年8月末～9月上旬の2週間、大学生・大学院生を対象とした理工系インターンシップを実施しました。5回目の実施となる今回は機械・電気系分野を専攻している学生11人が参加し、カブラ・機工・リニアの3事業部に分かれて実習を行いました。

インターンシップでは「モノづくりの流れを学ぶ」をテーマとし、設計開発・品質保証・生産管理・製造のモノづくりに関わる一連の流れを学びました。本社実習は、部品製図作業および製品開発アイデアを出し合うブレインストーミング、3次元測定器を用いた部品の測定。工場実習は、組立作業や製品検査などを行い、幅広い視点でさまざまな業務を体験しました。参加した学生からは「企画・組立・改善点を考える実習は、それぞれの難しさを実感できた」「工場実習は『生産効率』『組立性』という視点で開発を考えられるようになり、自分自身の成長も感じられた」「製造した製品にしっかりと責任を持つこ

とはとても大変なことだが、実際に自分が作った製品が使われた時は本当に嬉しいと思うし、やりがいを感じられる」という意見もありました。また「今回の経験を通じて社会で働くことへの不安が少し解消された」という意見もあり、大変嬉しく思いました。今後も、インターンシップを通じて、学生や大学との相互信頼を深めていきます。



Part
3

社員とご家族が安心して暮らしていけるように、より良い職場環境を目指します。

社員および家族との関わり

日東工器グループは、社員の皆さんが安心できる職場づくりに力を入れています。

社員向け決算説明会や家族参観日、社員向けライフプランセミナーなどを通じて会社を理解していただき、信頼される企業を目指しています。

家族参観日

2012年から毎年8月に開催してきた「子ども参観日」を、2016年は「家族参観日」に名称を変え、社員や内定した学生の家族まで対象範囲を広げて開催しました。

「家族参観日」の目的は、①社員の職場を実際に見てもらうことで仕事に対する理解の向上 ②子どもたちの勤労観や職業観を育む ③育児に対する社内の理解促進などが挙げられます。今回は、子ども向けプログラムと、大人向けプログラムを分けて実施しました。

子ども向けプログラムでは、「製品紹介」「名刺交換」「お父さんお母さんのデスク訪問」「工作」「社長からの記念品贈呈」などを行いました。「製品紹介」では、子どもたちが実際に製品を動かしました。その様子はとても楽しそうでした。

大人向けプログラムでは、「製品紹介」や「社内見学」に加え、採用担当者が経営方針や事業説明を行いました。特に、燃料電池自動車「MIRAI」に採用されているHHVカブラの紹介、鋼材穴あけ機「アトラ」の実演が好評でした。

「家族や子どもに、自分の職場のことを知ってもらえて良かった」「10年後、成長した子どもをまた参加させたい」「息子の働く会社がよく分かり安心した」といった感想をいただきました。

家族に会社や仕事を理解してもらうことは、社員にとって大きな支えになります。今後も、内容を充実させながら、「家族参観日」を継続したいと考えています。



メンタルヘルス研修

心の健康は、社員やその家族の幸福な生活のためにとっても重要な事項ですが、仕事を進める上でも必要なことです。2016年度は、「セルフケアの重要性」「ストレスへの対処方法」を学ぶ研修を全社員対象で実施しました。9月には「ストレスチェック」を実施。自分のストレス状態を認識し、ストレスと

うまく向き合う方法について社員に情報を発信しています。

近年は、労働時間と仕事のバランスを大切にする意識が高まっており、「計画有休」「ノー残業デー」制度を推進しています。これからもさまざまな取り組みを通じ、心身ともに健全で活気ある職場づくりを推進していきたいと考えています。

ライフプランセミナー

日東工器グループの社員を対象に、定年後のセカンドライフの不安を解消するための「ライフプランセミナー」を、2016年10月に社外講師を招いて開催しました。

今年の参加者は19人で、年齢は50歳から59歳とやや幅がありました。年金受給年齢の段階的変更など、参加者一人ひとりの状況が異なることもあり、「自分に対象となる内容は何か」「自分の年齢だからこそ考えておかなければいけないことは何か」など必要な情報をつかみ取ろうと、真剣に講義を聴いていました。以前は「55歳以上」の社員を対象に実施していたセミナー

でしたが、数年前に受講対象者を「50歳以上」にしたことから、早期から定年後の人生設計を考えられる場として好評です。

参加にあたり、日本年金機構からの「本人のねんきん定期便」、また家計の全体像をつかみたい社員には「配偶者のねんきん定期便」を持参してもらいました。セミナーの講師は「いろいろな所で研修を実施しているが、全員が持参しているケースは本当にめずらしい」と驚いた様子で、参加者の真剣度が高いセミナーでした。



社員向け決算発表会

日東工器は年2回、社長をはじめ経営層による、社員向け決算発表会を本社で開催しています。

2016年は5月に「2015年度決算」、11月に「2016年度中間決算」の発表会を、決算発表当日に実施しました。社長からは日東工器グループの連結決算総括について、経営指標である売上や利益、併せて実施中のさまざまなプロジェクトの状況を交えての説明。続いて生産担当取締役から、日東工器グループの

国内生産会社3社の経営概況・コストダウン・納期・クレームの状況・新たな設備・トピックス・課題や方針などの報告がありました。最後に営業担当取締役から、売上げ推移・製品群別の販売状況・市況・営業活動やトピックスなどを説明しました。

日東工器は、グループ全体の業績・活動などをさまざまな切り口で捉え、最新状況をトップ自らが社員に伝えることを、大切にしています。

社員会（労働者組織）活動紹介

日東工器には労働組合はありませんが、社員を代表して会社側と職場環境の向上や労働条件などを協議する「社員会」があり、組合に相当する活動を行っています。社員会と会社は毎月1回、定例協議会を実施。協議会を通じて、社員の意見を会社側に発信し話し合いを行っています。

社員会は2017年で設立50年を迎えます。長い歴史の中で、近年の要望は処遇改善に加えて、育児や介護などライフス

テージの変化を迎えた社員が働き続けられる「職場の環境整備」へと変化しています。少数の社員の意見も取り上げる社員会の存在は、社員の定着率の高さにもつながっています。

今後も時代に即したさまざまな改善、取り組みを通じて、健全で活気ある職場づくりを社員会・会社が協力し合い推進していきます。

Part
4

地域の皆様と良好な関係を築き、社会に貢献します。

地域との関わり

日東工器グループは地域の皆様と良好な関係を築き、共に成長していきたいと考えています。

今後も事業活動に加え、さまざまな活動を通じて地域や社会に貢献していきます。

「第16回 エコフェスタワンダーランドin六郷 ～地域から考える地球の未来～」開催

2017年2月、今回で16回目となるエコフェスタワンダーランドが大田区西六郷の区立高畑小学校で開催されました。エコフェスタとは、毎年大田区主催で区内の小学校において、地域の団体・企業などが環境をテーマにした工作や展示などを行い、子どもたちに楽しく環境にふれてもらうイベントです。

日東工器は7回目の参加となり、恒例となった松ぼっくりのミニクリスマスツリー、自然の材料を使ったリース作り体験に加えて、ブース内には燃料電池自動車「MIRA」に採用されている「HHVカプラ」や、分解・洗浄が容易な迅速流体継手「サニタリーカプラ」（※2016年度グッドデザイン賞を受賞／詳細はP.22に記載）の展示などを行いました。

●子ども大人も夢中！ミニクリスマスツリーとリース作り

寒い日が続く2月の開催でしたが、開催当日は日中暖かな陽気に包まれました。開始早々、たくさん子どもたちが日東工器ブースにやって来ました。突然にぎやかになったブース内では、所狭しと自分の好きな色・形のツリーやリースを、子どもたちが嬉しそうに、楽しそうに作っていました。お手伝いをお願いした2人の小学生のキッズスタッフもすぐに作り方を覚えて、小さい子どもたちに優しくていねいに作り方を教えてくれました。

一緒に来場した大人の方は、色とりどりのツリーやリースを作る子どもたちを、うらやましそうに見守っていました。ある大人の方に「一緒に作っていいですか？」と声をかけられ、もちろんOK!すると、子どもに負けないうらい嬉しそうに夢中で作る

姿がとても印象的でした。その後、親子でツリーとリースを別々に作って、おうちで一緒に飾りたいという人が続出。スタッフはお手伝いにてんてこ舞いの、嬉しい悲鳴でした。

作品が完成すると、作品と一緒に記念撮影。子どもも大人も、みんな笑顔で一生懸命作った作品を見せてくれました。子どもたちの満足そうな笑顔を見ていると、メーカーとしての大切な原点である「モノづくりの喜び」を思い出した気がしました。

今年は90個のリース、100個のツリーが来場者のご家庭で飾られることでしょう。クリスマスまで大事に飾っておいてください。

●最優秀賞受賞!?「環境フォトコンテスト」

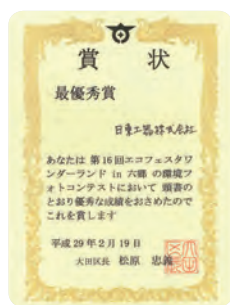
エコフェスタでは、毎年参加団体が環境に関わる様々な場面を写真に撮って紹介する「環境フォトコンテスト」が行われています。参加団体が厳選した写真を一同に展示して、来場者をもっとも気に入った写真に投票します。今回はなんと!?日東工器社員の応募写真が最優秀賞を受賞しました!

毎年入賞を逃してガッカリが続いていましたが、ようやく受賞の栄誉に輝きました。僥越ですが受賞写真を紹介します。写真の感想は読者の皆様の評価にお任せします。

これからも大田区の一員として地域の皆様の成長・発展に協力し、地球の未来のために社会への貢献を続けるとともに、愛される企業を目指していきたいと思ひます。



ミニクリスマスツリー・リース作り



環境フォトコンテスト賞状



最優秀賞作品



「多摩川河川敷清掃活動～グリーンアクションたまがわ～」に参加

2016年5月、「多摩川河川敷清掃活動～グリーンアクションたまがわ～」に日東工器本社の有志で参加しました。この活動は1973年から東京都大田区が毎年主催し、大田区の職員・関連団体・地域企業・NPO・自治会・地域住民の皆様が協力しています。今年の活動場所は多摩川の河口近く、六郷橋緑地から大師橋緑地までの約1.5Kmを、約2,000人で清掃しました。日東工器は地域社会への貢献の一環として毎年活動しており、役員・社員総勢19人が参加しました。目には青葉の季節、美しい河川敷の緑をより一層きれいにするために、参加者全員が協力して清掃活動を行いました。清掃活動後のきれい

になった河川敷を眺めると、爽快感に包まれ達成感に溢れました。今後は会社の近隣地域だけではなく、いろいろな地域のボランティアに参加し地域社会への貢献を続けていきたいと思っています。



鬼怒川・小貝川クリーン大作戦

2016年7月、今回で第26回目となる国土交通省河川事務所主催「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」が開催されました。栃木日東工器は地域環境活動の一環として8回目の参加となり、早朝7時から社員27人が活動しました。

当日は開催が危ぶまれる天候でしたが、参加者が多数集まり清掃が開始されました。開始と同時に大粒の雨が降り始め、ずぶ濡れの中での清掃活動となりました。例年よりは短い時間でしたが、毎年の活動の成果か、収集したゴミの量は年々減少しており、確実な効果を実感することができました。

今後も地域の皆様と協力し、環境にやさしい社会作りに貢

献してきたいと思います。



名古屋支店の震災対策

2016年12月、名古屋支店では名古屋市名東区役所担当者を講師に迎え「地震講習会」を開催し、社員18人が参加しました。

名古屋支店のある名古屋市東部は、揺れの大きな地震発生の際には、土砂崩れや地すべりなどの被害発生を想定しています。講習内容から、被災時の自社設備対応、避難場所や備蓄された非常食などの物資が十分でないことを知り、我々を含めた住民の自助努力による非常食などの物資の確保や、家具の固定による転倒防止・ガラスの飛散防止などの減災対策の必要性を強く感じました。

また、近隣が互いに助け合い、地域を守る重要性も学びました。支店周辺は住宅地のため、朝の清掃活動を通じて近隣住

民の皆さんとコミュニケーションを取り合い、有事の際に声を掛け合える信頼関係を築きたいと感じました。

支店設置のAEDも、必要時には地域の皆様に活用していただきたいと思います。



「下町ボスレープロジェクト」に協賛

「下町ボスレープロジェクト」は、大田区の町工場を中心に自分たちの技術力をアピールする目的で発足しました。日東工器は、地元・大田区の製造業を応援するため、2015年から「下町ボスレープロジェクト」に協賛し、サポーターとなっています。協賛企業として、ボスレーのボディーに日東工器のロゴが貼付されています。日東工器本社では、株主総会に合わせて実物展示をしました。

なお、2018年平昌オリンピックに向け、ジャマイカチームにソリを提供しています。



Chapter 3 環境への取り組み

Part

1

環境と人に優しく、持続可能な経営を実現させます。

日東工器が目指す環境経営

ISO14001をもとに、環境に配慮した省力化・省エネルギー製品の開発、さらに生産効率化と省エネルギー生産、廃棄物の削減、営業活動、製品輸送、サービス対応活動などすべての業務活動において、環境と人に配慮した持続可能な経営を推進していきます。

私たちは「製品づくりからお客様が使用し、満足いただけるまで」という考えを基本に、一貫した環境配慮と省エネルギーに努めます。

Part

2

地球環境への負荷低減を重要課題とし、積極的に取り組みます。

環境方針・環境マネジメントシステム

環境方針 〈ISO14001〉

理念

日東工器株式会社は、産業界の省力化と作業環境の改善を不変のテーマとして独創技術による高品質・高機能・高信頼性の製品づくりに邁進して来ました。製品を通じての地球環境への取り組みばかりでなく、事業活動を通じて地球環境への負荷軽減が当社の果たすべき重要課題であると認識し、全ての面で社会的責任を果たします。

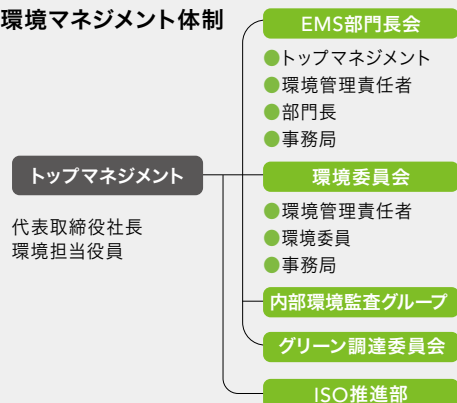
基本方針

- ①日東工器株式会社は、全従業員一人ひとりが環境意識を高め、迅速流体継手「カブラ」、機械工具（空圧機器/油圧機器/電動機器）、空気圧縮機・ポンプおよびそれらの応用製品、建築機器（ドアクローザ）等の製品設計から販売までの業務および、それ以外の全ての業務において環境保全に努めます。
- ②環境配慮の製品設計、グリーン調達・購入、省資源・省エネルギー、リサイクルの促進、廃棄物の削減などに取り組み、環境汚染の予防に努めます。
- ③環境関連の順守義務事項を順守します。
- ④環境目標を設定し、運用し、定期的に内部監査・マネジメントレビューを行い、事業活動と整合した活動として環境マネジメントシステムを継続的に改善します。
- ⑤この方針は文書化し、全従業員に周知徹底するとともに、社外からの求めに応じて公開します。

環境マネジメント体制

環境マネジメントを推進する体制として、EMS（Environmental Management System）部門長会、環境委員会、内部環境監査グループ、グリーン調達委員会を設置し、ISO推進部を事務局としています。

環境マネジメント体制



環境マネジメントシステムの運用状況

ISO14001環境マネジメントシステムに準拠した「環境マニュアル」に基づき環境マネジメントシステムを構築・運用しています。運用にあたり、以下のように実施しています。

- ①EMS部門長会の開催
定例EMS部門長会を3月初旬に開催し、次期のEMS組織と役割、第三者認証審査などの年間計画、内部環境監査結果の伝達などを行います。
- ②環境委員会の開催
毎月各部門の環境実績報告により、目的・目標に対する実施・進捗状況を確認します。また、EMSの維持管理と各部門への伝達などを行います。
- ③内部環境監査の実施
年に2回、内部環境監査員による各部門の監査を実施します。内部環境監査に先立ち、内部環境監査委員会議を開催し、第三者認証審査結果や前回の内部環境監査結果、内部環境監査の重点項目などの伝達などを行います。
- ④マネジメントレビューの実施
環境管理責任者は必要な情報を収集し、「環境マネジメントレビュー報告書」を作成してトップマネジメントに報告します。この報告書に基づき、トップマネジメントは年2回4月と10月に定期レビューを行います。

※2016年11月 ISO14001：2015へ認証移行しています



環境と人に優しい安全性を追求します。

製品含有化学物質への取り組み

日東工器では環境法規順守、グリーン調達、製品含有化学物質調査、社員の環境教育などを通じて、より安全な製品を生産する仕組みを構築しています。

これにより、環境と人に優しい安全な製品をお客様に届けるという製造メーカーとしての責任を果たしています。

環境に関する法規制順守状況

日東工器で制定した「グリーン調達基準」の全製品対応において、一部製品に規制値を超えた含有が確認されました。こ

の対応処置の詳細につきましては、ホームページに公開しています。その他、環境に関する法令違反・指導・苦情はありません。

グリーン調達

日東工器は、品質や価格だけでなく環境のことも考え、環境負荷ができるだけ小さい材料・部品・資材やサービスを、環境負荷の軽減に努める仕入れ先様から優先して購入する取り組みを実施しています。

1) グリーン調達方針

グリーン調達方針は、方針を定める目的、適用する範囲などを制定し、日東工器に関わりのあるさまざまな人に開示して、日東工器の企業姿勢を表明しています。

2) グリーン調達基準

日東工器の生産活動にご協力いただいている仕入れ先様に、日東工器のグリーン調達の考え方と対応順守の要請を行う基準です。本文と日東工器の管理化学物質リストで構成され、仕入れ先様は日東工器のホームページからダウンロードできます。2004年に制定し、2017年4月現在8.2版を開示しています。

3) グリーン調達委員会

日東工器のグリーン調達活動を推進することを目的とした組織です。各商品事業部・生産本部・各生産拠点から委員が出席し、毎月グリーン調達活動におけるさまざまな議案を討議しています。2016年度の活動では、2015年度から正式運用を開始した製品含有化学物質管理システム（CMS）の運用状況評価のため、新たに内部監査を実施・改善を行いました。また、仕入れ先様のCMS構築状況評価を引き続き実施し、必要に応じて改善依頼を行いました。

4) 日東工器の製品含有化学物質調査

JAMP^{※1}に会員として加盟し、「AIS」「MSDSplus」^{※2}による調査管理を行っています。同様に仕入れ先様にも「AIS」「MSDSplus」による調査管理を依頼し、実施管理していただいています。

※1 JAMP（アーティクルマネジメント推進協議会）：化学物質情報を適切に管理し、円滑に開示・伝達する仕組みを作り普及させるために発足した、製造業界横断の活動推進団体

※2 「AIS」「MSDSplus」：JAMPの作成した化学物質情報伝達ツール

環境教育の実施状況

2016年度の日東工器およびグループ会社の環境教育実施状況です。今後もさまざまな観点より、必要教育を実施します。

内訳	日東工器		栃木日東工器		白河日東工器		メドテック	
	開催教育数	延べ受講人数	開催教育数	延べ受講人数	開催教育数	延べ受講人数	開催教育数	延べ受講人数
合計	106回	1035人	28回	407人	16回	114人	14回	230人
環境役割者教育	9回	9人	—	—	—	—	—	—
環境外部セミナー	8回	28人	—	—	4回	6人	—	—
専門教育	7回	53人	4回	32人	—	—	—	—
新人環境教育	16回	41人	2回	6人	2回	4人	3回	5人
環境一般教育	59回	496人	18回	314人	9回	94人	3回	18人
緊急事態訓練	7回	408人	4回	55人	1回	10人	8回	207人



省エネ・省資源に努めCO₂ 排出量を削減していきます。

地球温暖化対策・廃棄物の削減

日東工器は環境方針に則り、リデュース・リユース・リサイクルの推進を通して、コスト削減と環境保全を両立し、地球温暖化防止のため省エネ・省資源への取り組みを推進しています。

地球温暖化防止に向けた活動

●地球温暖化防止に向けた活動

日東工器はこれまでに、環境に配慮した製品の開発、空調温度の管理と設備の高効率化、LED照明、電力のピークカット、ハイブリッド車の導入とエコドライブの励行、ペーパーレスシステムの構築、コピー用紙の削減、資源のリサイクルなど、さまざまな取り組みを行ってきました。

一つひとつは小さな効果ですが、それらを積み重ね少しでも地球環境改善に貢献できるよう、各部門で自分たちのできる活動は何かを考え、目標を設定し、活動を続けています。

●CO₂排出量

2016年度の日東工器CO₂排出量の実績は、920tとなり2015年度に比べて11t増加しました。日東工器のCO₂排出量の割合は、電力によるものが約72%、自動車用の燃料が約21%と、この2つで約93%を占めています。

なお、CO₂以外の温室効果ガスについては、排出していません。(図1参照)

●電力使用量

2016年度の日東工器の電力使用量は、地道な省エネ活動をしていますが、1,949千kWhと前年度に比べ増加しました。昨年までは、東日本大震災が発生した2011年度の水準から、同レベルを維持していましたが、実験設備の稼働時間の増加などが影響しています。(図2参照)

廃棄物の削減

●廃棄物排出量

2016年度の日東工器の廃棄物量は、16.5tと前年度に比べ2.7t減少しました。廃棄物は廃棄時に材質などから14種類に分類し、できるだけ後工程に負荷をかけずリサイクルできるように対応しています。(図3参照)

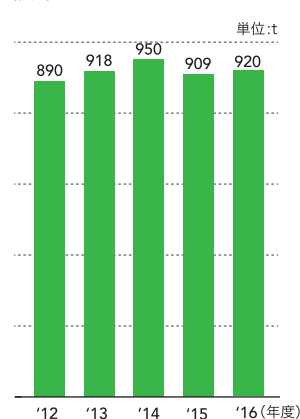
●紙類リサイクル量

2016年度の日東工器の紙類のリサイクル量は、30.7tと前年度に比べ4.6t減少しました。(図4参照)

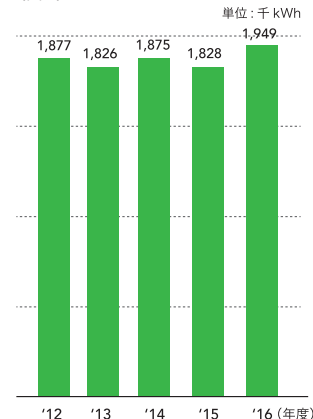
●コピー用紙使用量

各部門の業務改善の積み重ねや、裏紙の再利用などによるコピー用紙の有効利用が浸透し、2016年度コピー用紙使用量は、5.4tで、前年度から0.6t減少しました。(図5参照)

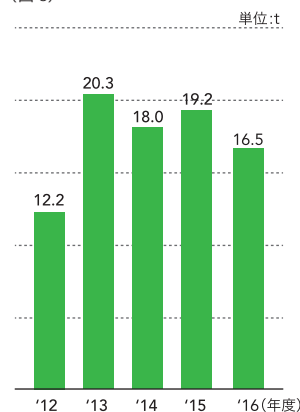
CO₂ 排出量の推移 (日東工器)
(図 1)



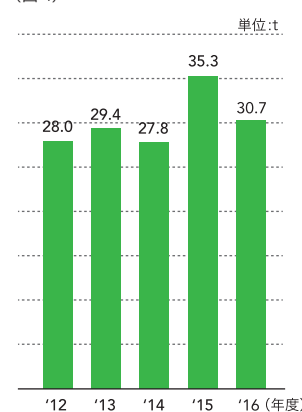
電力使用量の推移 (日東工器)
(図 2)



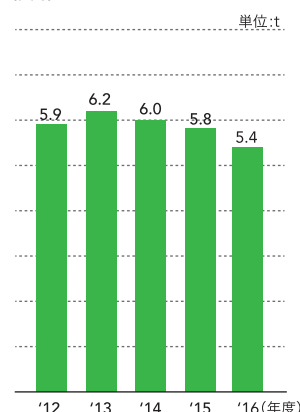
廃棄物排出量の推移 (日東工器)
(図 3)



紙類リサイクル量の推移 (日東工器)
(図 4)



コピー用紙使用量の推移 (日東工器)
(図 5)



Part
5

環境負荷の低減を目指し、環境への影響の「見える化」を、継続的に取り組んでいきます。

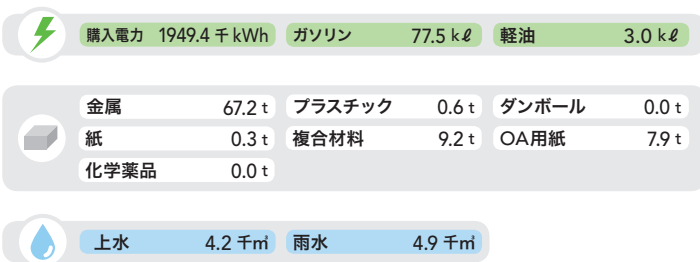
環境への影響について

日東工器の国内拠点において、2016年度に投入したエネルギー量・水資源量・原材料その他購入品の量と、排出した環境負荷量・廃棄物量・リサイクル量および製品として出荷した量は以下のとおりです。

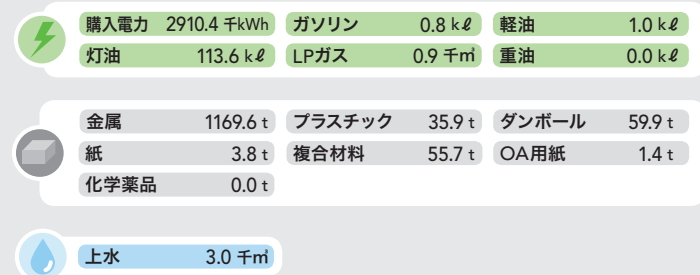


INPUT

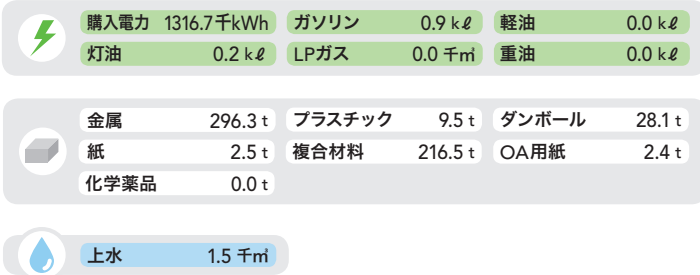
日東工器株式会社



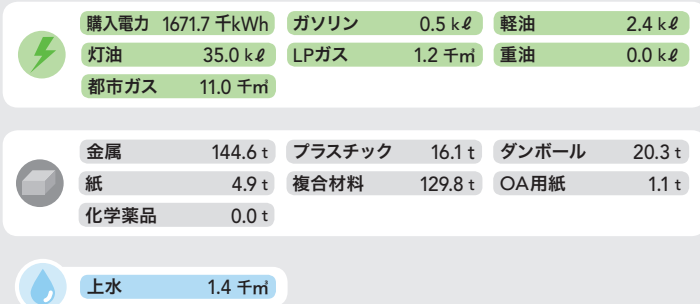
栃木日東工器株式会社



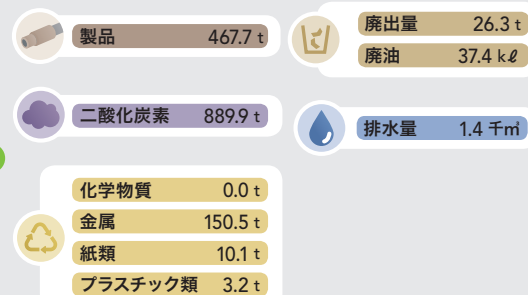
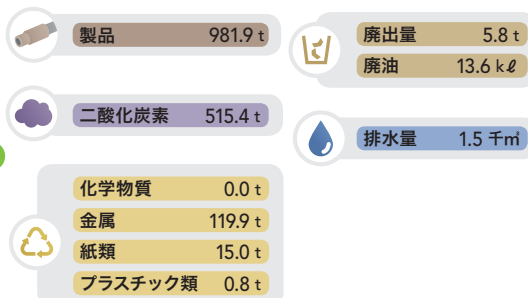
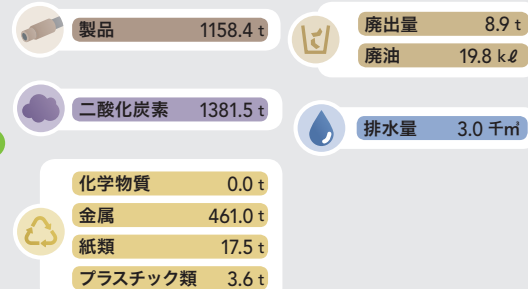
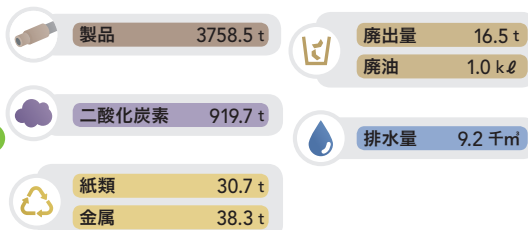
白河日東工器株式会社



株式会社メドテック



OUTPUT





独自の技術と設計で皆様の環境保全に貢献します。

製品開発

日東工器は開発面でも環境貢献に力を入れており、
環境配慮設計 (DfE=Design for Environment) 評価の採用もその一つです。
今後も独自の技術開発で環境保全に努めます。

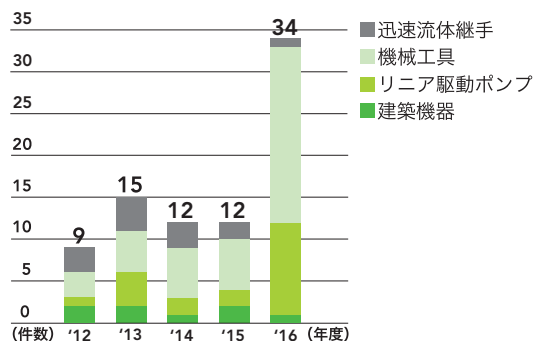
自社製品コンセプト

日東工器は創業から半世紀余にわたり、一貫して人間に
焦点を当て、独創的な技術を大切にモノづくりを行って
います。それら技術を活かした当社製品が目指してきたの
は「産業界の省力・省人化、作業環境の改善」であり、使う人
の立場で社会に貢献し続けることです。また独創的な技術
を追い続けることが、将来の持続可能な発展へとつながっ

ていきます。今日では「25,000種を超える迅速流体継手」、
「鋼材穴あけ加工など各種機械工具と電動ドライバ」、「リニ
ア駆動などの各種ポンプ・コンプレッサと応用製品」、「ドア
クロザー（建築機器）」の4事業でさまざまな製品を世の中
に送り出し、いずれも高い評価をいただいています。

環境配慮設計

日東工器で新製品や改良製品を設計する際に取り入れて
いるのがDfEです。DfEとは、開発段階からお客様の製品廃
棄時までを通した各段階で、環境負荷をできるだけ低減す
る設計のことを表します。日東工器ではDfEを2004年度か
ら導入し、2016年度までの13年間で累計208件の環境配慮
製品を開発しました。



空気式研磨機 コンパクトマルチサンダー 「CMX-20」

コンパクトマルチサンダー「CMX-20」は、狭い箇所での金属
表面仕上げを容易にした空気式研磨機です。小型・軽量・低振
動で作業性に優れており、独自の偏芯機構の働きにより、高効
率・高精度の研磨作業ができます。研磨パッドは、指のような形
のフィンガーパッド・長方形の角パッド・円形で直径2インチ（約
50mm）のパッドの3種類を簡単にに取り付けられ、目的に応じた
研磨作業が可能です。

開発のきっかけとなったのは、展示会での情報収集の中で、
「小型の仕上げ工具を作ってほしい」との要望があったことでし
た。調査してみると、「現状の研磨パッドは大き過ぎて、研磨箇所
が見えない。研磨箇所を見ながら作業したい」「研磨パッドが大
き過ぎることで、研磨箇所以外に研磨パッドが当たってしまい、
意図しない箇所が削れてしまう」といったニーズや不満が浮か
び上がりました。

通常、工具は1つの動作しかしませんが、「CMX-20」はダブルアク
ション研磨とオービタル研磨という2つの動作を兼ね備えた複合
機としました。それは、競合製品との差別化と、お客様の使い勝手
が良い製品になることを目指した製品開発結果です。

本機は、用途に合わせた3種類の研磨パッドが標準付属品で
準備され、偏芯した回転軸に研磨パッドを取り付けて使用しま
す。3種類の研磨パッドの動作と重量バランスが異なるため、回

転軸の構造設計には苦心しましたが、振動のパターンを解析す
ることで振動を減らしました。

研磨パッドに使用している樹脂やスポンジの設計では、素材・
接着剤や両面テープの選定にあたり、強度計算やさまざまな製
造条件調査を行いました。また、成形環境による樹脂の形状変
化対応など、樹脂生産技術を駆使し製品化に至りました。

おかげさまで国内のみならず海外でも好評です。



高温の熱水に適したシール材質を採用

熱水用カブラ HW型

「熱水用カブラ」は、樹脂成形時に金型を温めるため、金型温度調節機から金型に高温の熱水を流す配管に使用するカブラです。

近年自動車産業を中心に、製品の軽量化を目的として金属を樹脂に置き換える動きが加速しています。樹脂に求められる機能や寸法精度の高まりに伴い、金型の温度調節も高温化が進んでいます。

約180℃の熱水は、通常使用されているフッ素ゴムのシール部材を短期間で劣化させます。熱水用カブラは、実使用を想定して実際に使用されている金型温度調節機と使用条件を再現した耐久試験を行い、最適なシール材質を選定することで長寿命化を実現した環境配慮製品です。

また、その他の特徴として、①接続時のシール部材の2重化によるシール性および耐久性アップ、②不意な離脱を防止する「セーフティロック機構」の採用、など安全性にも配慮した製品です。



『サニタリーカブラ』が2016年度グッドデザイン・ベスト100を受賞！

2016年度社会・環境報告書で紹介した迅速流体継手「サニタリーカブラ」が2016年度グッドデザイン賞(※)を受賞しました。2016年度の審査件数は近年最多の4,085件、そのうち受賞デザインは1,229件でした。

同製品は少ない部品点数、機構設計の工夫が評価され、「グッドデザイン・ベスト100」ならびに審査委員が選ぶ「私の選んだ一品」の栄誉にも輝きました。



※グッドデザイン賞：日本デザイン振興会が主催する「総合的なデザインの推奨制度」

単三形電池対応、小型・軽量の携帯型吸引器

キュータム QT-500

「キュータム」は、電池式小型・軽量の医療用携帯型吸引器です。サイズ・重さとも大幅に小型化したことで携帯性が向上、自宅・病院はもちろん、それ以外のさまざまな場所で使えます。サイズは縦300mm・横125mm・高さ175mmと小型で、重さはわずか1.2kgと軽量です。本体・付属品はショルダー式キャリングバッグに収められ、容易に持ち運びができます。一例として、在宅医療の患者様が移動中にたん吸引が必要になった際、「キュータム」を携行していれば適切な対応が可能となります。

単三形電池4本またはACアダプタの2通りの電源が使用でき



るため、屋内・屋外・緊急時・停電時など、状況に応じて使用が可能です。また専用小型ポンプにより静かで、レギュレーター式の吸引圧力調節方法を採用することで、吸引効率を高めました。

耐久性・堅牢性&作業性に優れる研削・研磨機

ベルトンCLタイプ B-10CL/20CL/30CL

ベルトンCLタイプ「B-10CL/20CL/30CL」は、ダイカストや鋳物の研削・研磨に最適な空気式ベルトサンダです。各機種とも、エアモータに新素材のブレード採用・モータの構造変更・製品各部の材質や構造を見直しするなどで、耐久性(寿命)で20%(当社の従来製品比)の向上を実現し、併せて堅牢性も向上させました。現在さまざまな分野に使用される工具は、「小型・軽量化」へと改良が進んでいます。しかし、このベルトンの開発コンセプトは、長年ベルトンを愛用しているハードユーザー様からの多くの声を受け「小型・軽量化」より「堅牢」を目指しました。お客様の要望を受けての開発製品です。主な特徴は、① 耐久性や堅牢性を向上 ② 研磨ベルトの交換を簡便化し、本体角度の調節機構が



付加されるなど、操作性・作業性がアップ ③ 速度調節が可能 ④ 曲面研削が可能です。



安全・品質・環境に配慮し、より効果的な取り組みを目指します。

生産部門の取り組み

メーカーである日東工器にとって、生産現場での環境の取り組みは非常に重要です。

多岐にわたる製品を生み出すそれぞれの生産拠点でどのような取り組みが行われているのか、国内外の主要な生産拠点を例にとって説明します。

日東工器グループのグリーン調達方針

日東工器グループの生産に使用する材料・部品などはグリーン調達方針に則り調達しています。

- ①日東工器は、化学物質に関する法規制を順守した原材料・部品・製品・副資材（以下、調達品という）を調達します。
- ②日東工器は、人や環境に対して有害な化学物質を製造工程で使用することを禁止または削減します。

③日東工器は、環境マネジメントシステムおよび製品含有化学物質管理システムの構築に取り組んでいる仕入れ先様からの調達を優先します。

④日東工器は、お客様の要求に応えるために、製品含有化学物質情報を把握するとともに、情報開示に努めます。

国内生産グループ会社の取り組み

●RoHS指令特定有害物質受入検査体制の充実

日東工器グループに納入される部品は、仕入れ先様の協力の下、特定有害物質を含まない体制を構築しています。2015年度にメドテックで開始した蛍光X線分析器による含有チェックを、2016年度は栃木日東工器・白河日東工器・NKIT（タイ）のグループ会社（全主要工場）でも開始しました。

RoHS指令の特定有害物質の含有判定のため、仕入れ先様から納入された部品は、リスクレベルに照らし合わせ蛍光X線分析を行っています。

工場の蛍光X線分析で判定が難しい場合、日東工器本社および外部機関による精密分析を行い、含有判定を明確化してリスク低減に努めています。

確実・効率的に分析を行うため日東工器グループ内で対応ルール化・共通認識し、これからも検査体制の充実と、お客様に安心して購入・使用いただける商品を提供できるよう取り組みます。

●仕入れ先様への事業説明会（日東工器グループ国内3生産会社合同事業方針説明会）開催

2016年6月、日東工器グループ国内3生産会社合同事業方針説明会を2年ぶりに開催し、仕入れ先様136社166人の方々にご出席いただきました。

説明会では、日東工器と国内各生産会社の2015年度の実績ならびに2016年度の事業方針発表と、日東工器グループの環境への取り組みについて報告が行われました。

今回の説明会では、日東工器の製品含有化学物質管理の必要性についての説明を行い、最後に日東工器の品質・環境それぞれについて長年貢献していただいた仕入れ先様を表彰いたしました。

日東工器の製品品質は、含有化学物質を含め多くの仕入れ先様の協力の上で保たれています。

国内生産グループ会社の改善活動

●生産改善（栃木日東工器）

栃木日東工器は、社内の加工設備（工作機械）で日東工器製品の部品を加工し、組立設備で製品組立を担っています。

工作機械の中には、30年近くもの間、我々と一緒に歩みノウハウを蓄積した大切な設備もあります。

2016年7月、長年使用した工作機械のうち1台を最新設備に代替更新しました。新しい工作機械は、環境省補助金事業「エコリソース促進事業補助金制度」の対象に登録されている設備の中から選定しました。この制度は環境省が定める基準を満たした低炭素機器が対象となる制度で、省エネ性能に優れた設備であることの証となります。

また、この工作機械は、工場の長年の課題であった機械加



栃木日東工器全景

工時の排出切屑を、細かくする最新技術を備えています。

公に認められた環境配慮設備ということに限らず、従来加工時の切屑の難題を解消することで生産効率も大幅に向上し、名実ともに大きな環境負荷低減効果が得られました。

紹介した設備以外にも環境に配慮した複数の最新設備や最新技術を積極的に取り入れ、環境に優しい生産工場になる取り組みを実施しています。

●生産改善（TPM活動）発表会（メドテック）

メドテックは、2005年から生産改善活動を本格的に開始し、毎週1時間を改善活動の時間に充て全12チームが活動しています。毎月3チームずつ活動成果を発表し「金」「銀」「銅」賞の評価を受けています。改善活動の成果として、社員一人ひとりの品質・コスト・納期・環境意識が高まり、問題解決能力の向上とともに、全社の一体感を育んでいます。

日東工器本社では年に一度、国内生産工場の生産改善成果発表会が行われています。2016年8月の発表会には、2015年度に社内以最優秀賞を獲得した「ダイヤモンドサークル（製造部門）」と「ミステリーサークル（技術部門）」が「シリンダ端面研削作業性の改善」をテーマに共同チームとして参加しました。

研磨作業工程の問題点は、熟練作業者の経験で養われた「カン」や「コツ」に頼ることが多く、時間と労力がかかることでした。そこで、このテーマの問題を解決すべく、製造と技術2つのサークルがタッグを組み、打合せを重ね互いの得意分野より知恵を出し合いました。その結果、作業性改善と時間短縮を併せて実現できました。

●省エネ事務棟建設（白河日東工器）

白河日東工器は、新機種の生産開始に伴い、生産スペース確保が必要となりました。そのため、新たに事務棟を建設し、従来の建物から事務所・食堂・会議室などを移設することで、工場の生産スペースを広げました。事務棟の建設にあたっては、ランニングコストを抑えても快適に仕事ができる「エコ事務所」を念頭に、環境負荷低減に結びつくアイデアを出し合いながら進めました。

①蛍光灯は全てLEDを採用しました。消費電力を低減できたばかりでなく、明るさが増し細かい文字や色彩が鮮明に見えるようになったと好評です。また共有スペースには、自動ON-OFF機能付き人感センサーを取り付けて節電の工夫をしています。②空調設備は最新式の省エネタイプを採用しました。人がいなくなると自動でスタンバイ状態となる人感センサー機能付きで、節電効果を高めています。また、工場棟との出入口には、冷暖房



栃木日東工器 第7工場



日東工器グループ生産改善発表会

熟練作業者にしかできないと思っていたことが、活動の取り組みしだいで誰もが作業しやすく生産性向上に結びつけられたことに自信が持てました。

これからも日々の改善活動を積み重ね、日東工器グループの生産性・品質向上・環境配慮を推進します。

された空気を逃がさないために風除室を設置しています。

③周囲の地形上、寒風が吹き付ける南西側壁面には、他の壁面とは異なる特殊な断熱材を使い建物内の室温下降を抑制し、暖房効率を上げています。

④屋上には遮熱塗料を塗り、屋上の遮熱効率を高めています。これにより建物内の室温上昇を抑制し、夏の冷房効果による節電を期待しています。

これらの事務棟の取り組みと、2015年度に行った工場の空調設備更新により、事務棟を増築したにも関わらず白河日東工器の消費電力は大きく低減しています。



白河日東工器 新事務棟

海外生産グループ会社のCO₂排出量と電力使用量

NKAM	CO ₂ 排出量	95t
	電力使用量	209千kWh
NKIT	CO ₂ 排出量	931t
	電力使用量	2,076千kWh

Part
8

緑の中の本社・研究所で省エネとともに環境への意識を育みます。

オフィスの取り組み

本社オフィスは、最新の省エネルギー技術を採用しました。
自然の力をうまく取り入れることによって、環境に負荷をかけることなく、
1年を通じてオフィス内を快適な状態に保つことができます。
オフィスでの取り組みを紹介します。

日東工器本社



日東工器の本社社屋は「緑の中の本社・研究所」をコンセプトに建てられました。建物の周りには多くの植物が植えられています。事務棟と研究棟をつなぐ吹き抜けは、外光が降り注ぐ開放感のある空間となっています。さまざまな環境への配慮により、建物総合環境性能評価システム（CASBEE）で最上級の「S」にランクされています。

社屋の環境対応を紹介すると、4階、5階に緑地を設け、また敷地の外周にも約1.5mの幅で緑地を設けています。全体で4000本近くの木々を植えたおかげで、四季折々楽しめると、近隣住民の皆様にも好評です。また外周植栽の一部に近隣住民用のゴミ集積場も設けています。

オフィスには大開口のペアガラスを採用し、日中は外光を取り入れながら熱の出入りを押さえることで、節電に繋がります。

建物外観の大きな特徴となっているルーバー（電動外部ブラインド）は壁面の放射熱を約90%もカットし、省エネルギー化に貢献します。

オフィスの空調は、天井に設置したアルミ製の放射空調パネルで行います。冷房はパネルに冷水を流し、アルミパネルにより冷やされた冷気で、オフィス内が快適な温度を保ちます。加えてアンダーフロア空調という床下から空調も導入しました。涼しい季節は、空調を停止して、窓際の天井部分と網戸で自然換気を行っています。従来方式の空調に比べて30%程度も省エネ効果があります。

社屋の給水システムでは、雨水を地下貯水槽に溜め、トイレの排水用に利用しています。その効果で、本社の上水道の使用量は通常より40～50%も削減できます。

本社での取り組み

自動制御システムでピーク電力カット

本社では空調設備の制御・管理・監視および電力・水の使用状況を、パソコンで確認できる中央監視システムを導入しています。このシステムに、事前設定した使用上限電力（kW）を超えないように自動制御を行うシステムを追加導入しました。

従来は、設定した電力を超えないよう担当者が手動で空調を調整し、ピーク電力を抑えていました。追加導入したシステムは、使用電力が設定値を超えると予め設定した順序で自動的に空調設備を一時停止し、電力がカットできます。システム導入後、ピーク電力を4%以上引き下げることが成功しました。併せて、マンパワーに頼っていた制御・管理が自動で確実にできるようになり、業務効率化に効果をあげています。



Part
9

自然との関わりを大切に
社会や地域と良好なコミュニケーションを築きます。

生物多様性への取り組み

日東工器グループは社会や地域の皆様とともに成長する企業でありたいと考えています。
自然との関わりや生物多様性の一助となるボランティア活動を通じて社会や地域に貢献し、
皆様に信頼され、良好な関係を築いていくために、さまざまな活動を行っています。

「やまがた絆の森プロジェクト」に参加

今年のプロジェクトのボランティア活動にはメドテックの参加者に加え、来日していたNKIT (タイ) の研修者2人も飛び入りで参加、総勢60人で活動しました。天気はあいにくの雨。しかし、皆さんやる気十分でした。全員で記念写真撮影後、午前の活動は山の「下刈り班」と「自然観察班」に分かれて活動しました。

「下刈り班」は、1人ひとり身の丈ほどもある鎌を持ち、ヘルメットに合羽姿で山に入りました。下刈りは、苗木周辺に生い茂る雑草や低木を刈り取る作業で、植樹した苗に十分な日光を与え、健康な木を育てるために欠かせない「森の保育」作業です。タイの研修者も初めてとは思えない手さばきで作業をこなしていました。雨天の作業は、例年に増して苦労しましたが、皆さん協力し合い無事に作業を終えることができました。

「自然観察班」は、家族連れが目立ちました。雨天のため野外での活動が制限され屋内での活動が中心となり、摘み取った草で「草笛作り」を行いました。草笛は吹いても、なかなか音を出すことができませんでしたが、自然の遊びを楽しく体験しました。

活動後、入浴して、さっぱりしたところで昼食をとりました。昼食は、廃校となった金山町立金山小学校(旧谷口分校)を活用した「谷口がっこそば※」で手打ちそばを美味しくいただきました。



した。初めは“恐る恐る”食べていたタイの研修者も、完食していました。

午後の活動は、全員で地元銘木「金山杉」を使ったブックスタンドを作成。工作に不慣れな子ども達も大人に手伝ってもらいながらオリジナル作品を一生懸命作っていました。豊かな杉の香りがする金山杉のブックスタンドは思い出の一品になりました。

今後も「やまがた絆の森プロジェクト」を通じて、自然との関わりや生物多様性の一助となるボランティア活動に参加したいと思います。

※「谷口がっこそば」は、「四季の学校」として、廃校となった小学校を「そば打ち体験」「観光」など多目的施設として活用。施設は、小学校の趣を大切に「黒板」や「校歌の掲示物」など当時のままに留めた、どこか懐かしい空間です。





ロゴマーク

日東工器グループの世界統一ロゴマークとして、2014年に制定しました。シンボルマークと「NITTO KOHKI」のオリジナル書体を組み合わせ、グローバルに飛躍するNITTO KOHKIの信頼感・安心感・力強さを表現しています。信頼のブランドや、グループを表すマークとして、全世界で使用しています。

シンボルマーク

日東工器のイニシャル「N」に無限大の記号「 ∞ 」を重ね合わせた「無限大マーク」の外側にタービンプレードを図案化して配したものです。「無限の可能性を信じ、常に知性と勇気が生む強いパワーによって回転し、前進する」との企業姿勢を象徴しています。

日東工器株式会社

■ 本社：〒146-8555 東京都大田区仲池上二丁目9番4号

■ TEL：03-3755-1111代

■ URL：<http://www.nitto-kohki.co.jp/>